

琴清苑だより

発行：社会福祉法人 双葉会
介護老人福祉施設 琴清苑
編集：広報委員会

〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川1099
TEL 0428-83-3932 FAX 0428-83-3706
URL <http://www.futabakai.or.jp>
e-mail kinseien@futabakai.or.jp



施設長より米寿のお祝いを頂く河村トミ様

双葉会創設者 佐藤黙童会長逝去



佐藤黙童会長を偲んで
琴清苑長 小澤 大

勤められ供養の席が終ったあと、引続いて二人でのお酒を酌み交させて頂いたのが最期となろうとは、生者必滅の味わされました。老師は先の大戦から復員後、次代を担う子供たちを育てなければならぬと周慶院の一隅に氷川保育園を創設し働らく親たちの援助に力を注いで参りました。昭和三十八年老人福祉法が制定されると、これからは高齢者福祉の時代と先見され町役場を退職し特別養護老人ホーム寿楽荘を開設し、その十周年記念事業として更に特別養護老人ホーム琴清苑を開設、利用者の手厚い介護に努められました。強い信念の持ち主であり、人の面倒見も良く依頼されると総てを心良く受け入れ手助けをすると云う巾広い方でした。「人の為に尽くし見返りを求めたはならない」が口癖でした。私ごとになりませんが、妻に先立たれ小学一年の長女と障害のある四歳の長男を抱え途方に暮れ、荒れた生活の日々だった時、親身になって厳しく叱咤し、激励し、助言し、奈落の底から這い上がらせて下さったのが老師でした。何ら恩返しできぬままにお別れとは、まさに風樹の嘆。老師を亡くした今、法人役員は一致結束して施設利用者は勿論、地域福祉の向上に努めていくことを再確認すべき時と考えております。幾多の功績を残してこられた偉大なる周慶院廿一世覚正黙童大和尚、安らかに合掌

介護保険サービスの利用者が負担軽減措置が拡充されました

利用者負担額軽減措置として実施している生計困難者対策及び介護保険法施行激変緩和対策のそれぞれの内容が一部改正され、次のとおり対象が拡充されましたのでお知らせいたします。

I 改正の内容

(1) 軽減対象者の世帯の年間基準収入額、1人世帯の場合120万円を140万円に緩和し、以下1人増えるごとに50万円を60万円にする。

(2) 軽減対象者の世帯の基準貯蓄額1人の場合60万円を120万円に緩和し、以下1人増えるごとに50万円を加えた額とする。

II 実施時期

平成15年 7月 1日



盆供養

毎年、お盆を迎えるにあたり物故者の冥福を祈念し合同法要を行ないます。今年も7月12日(土)に、周慶院住職佐藤泰信(土)により、ご遺族6家族9名、利用者10名、職員15名、慈眼寺役員2名の参加を持って慎ましやかに行なわれました。



合同法要の様子



7月16日

(左上写真) 琴清苑玄関前にて、送り火の様子
(左下写真) 慈眼寺の琴清苑菩提寺にてお参りの様子
利用者の岡部邦男様と森・荒井介護主任



介護奉仕活動

国際的な視野を持った中学生の育成及び奉仕活動・体験活動をおして人間性豊かな中学生に育成することを目的として、奥多摩町より介護奉仕活動の協力を依頼されました。



利用者の小泉うめ様と参加された5名の中学生

介護実習

奥多摩町に住む大学生の小林絵美さんが、夏休みを利用して介護実習に来られました。



食事介助の様子

介護実習を終えて

小林絵美

今年にはボランティアとしてではなく社会福祉士の実習として1ヶ月お世話になりました。相談員をはじめ職員の方にはたくさんのご指導頂き本当に有難うございました。1ヶ月という期間ではありましたが、利用者の方とも深い関係を築けたように思いました。今回の実習で福祉について、施設について等改めて考える良い機会となりました。これからも福祉職への夢を叶えるために努力していきたいと思っております。短い間でしたが大変お世話になりました。本当に有難うございました。

ドクター中野の星のおはなし No.10

火星の超大接近（9号のつづき）

8月27日、18時51分、5,576万kmまで地球に近づいた火星は、これから少しずつ遠ざかる。離れるといっても急に小さくなり暗くなるわけではない。10月終わり頃まで大した変化もなく真赤な光を見せてくれる。今回の様な大接近は過去に溯れば5万7千年、あるいは6万年ぶりだという、超大接近とされる。

大きさは『視直径25"』とあるが、どの位の大きさに見えるかという150倍の望遠鏡を見た場合、肘をまっすぐ伸ばした時の小指の幅位に見えるという。

この小さな円盤像、時に欠けて見えるが、中に極冠をはじめ微妙な模様が見られる。

1900年頃、イタリアの天文学者スキヤパレリが表面に沢山のカナリ（溝）を発見した。ところが誤って運河と英訳されてしまった。火星の極の白い部分は氷で、季節が変わると模様が濃くなるのは運河に水が流水する為である。また、知能の優れた火星人がいるという事になり論争が起った。アメリカのローエルは、アリゾナの砂漠の中に天文台を建設し、一生火星を見続け、運河説を主張した。ウエルズは科学小説、宇宙戦争を著わしドラマ化され放送されたが、実況中継が真に迫っていた為パニックが起った。

今回の接近で注目されるのは大気の成分・氷の研究・存在の裏付け・巨大火山・大峡谷・川の跡の変化・極冠の変化形態・大黄色雲や砂漠の出現（この時は模様が見えなくなる。筆者も数回経験した）その他地形の変化等々であろう。前回の接近、南極冠の変化と違った個所も発見出来るであろう。



南極冠 マーサグローバールベイヤーによって二〇〇二年三月に得られた画像。夏の南極冠で、雲はあまり見られない。氷は永久凍土の部分である。



北極冠 二〇〇二年五月にマーサグローバールベイヤーによって撮影された北極冠、大きく成長しているように見えるが、その多くは雲である。

NASA/JPL/Malin Space Science Systems

更に火星面探査機で撮られた画像も面白い。昔、海といわれた所に水は無い。植物が茂ったとされた青色部は岩石のある荒地だった。水路に当たる所に何も無い。スキヤパレリの線状の模様にはその影すら無い。11月頃になれば、今回の接近で得られた成果はお伝え出来るであろう。

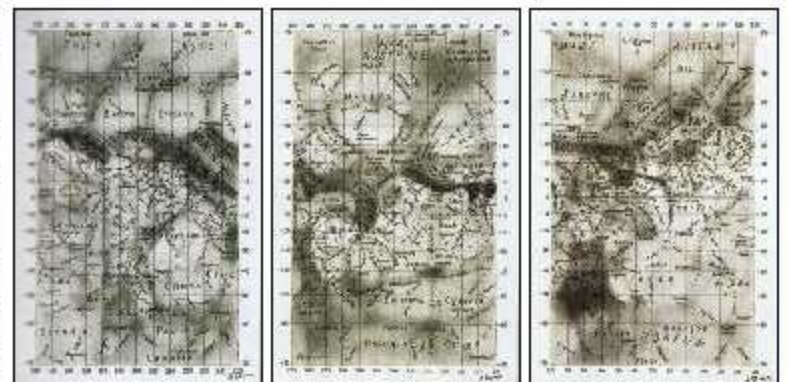
C O L U M N 火星大来襲パニック

火星の運河論争はやがて火星存在の社会的関心を高めることになり、H.G.ウェルズが1898年に発表した火星人の襲来をテーマにしたSF小説「宇宙戦争」は大ベストセラーとなった。そして、このSFは1935年にアメリカでオリソン・ウェルズによってラジオドラマ化された。ところが、彼の真実中絶世立ての演出が真に迫りすぎていたため、聴いていた人々はそれを真実と思いこみ興奮し、恐怖心から大パニックが起り逃げまどう人が出る始末となった。番組の途中「これはドラマです」と4回もことわりを入れたにもかかわらずである

▼人気を博した火星人のイメージ



フランス、パリのムードン天文台長アントニアジは、ガリレオ以来300年にわたる観測結果を集大成して「火星地理学」を発表し詳細な火星面図上の模様的位置を測定し、それぞれの模様ギリシャ神話に記されている神々の名・地名・河川などのラテン名が付けられた。



地上観測による火星図

1958年海老沢氏によって作成された火星図、アントニアジ以来の観測結果をまとめて作ったものである。（京都大学花山天文台提供）

写真 想像された火星 藤井旭「宇宙大全」より

職員紹介

介護職員 田中洋子



介護職員という仕事に付き人間関係、人生の先輩の方々のお世話が出来るとか、不安や心配が一杯でしたが、福祉職第一の安部先生に一口に言い表せないほどの色々な事が有りました。今となっては良い思い出となつて、心に残っています。今まで頑張つて来た我が身を労わり、残り少ない期間ですが、若い人達に道をゆづりつつ、教えられる事は教えて行きたいと思ひます。

編集後記

多くのご家族の来苑で賑わいを見せて、敬老感謝祭も終わりました。琴清苑周辺もやがて紅葉の季節を迎えようとしています。利用者の方々の楽しみは、ご家族の面会であると思ひます。是非とも奥多摩の紅葉見物を兼ねまして、琴清苑にお立ち寄り下さい。お待ちしております。

